

松本五十連隊

松本五十連隊とは？

松本に滞在していた特攻隊で、現在明らかになっているのは、陸軍の武揚隊、武剋隊、空五四一部隊である。

武揚隊、武剋隊、は、共に満洲国の新京で編成された部隊で、飛行兵の精悦が集められた事が分かっている。

浅間温泉の特攻隊

松本に滞在した特攻隊としてまず挙げられているのが、武揚隊と、武剋隊である。ともに昭和20年2月10日に満洲国の首都新京で編成された後、新田原(宮崎県)や各務原(岐阜県)など各所の飛行場を經由し、松本に入った。

松本五十連隊と信州大学

信州大学構内全体が松本五十連隊の演習場跡である。旧衛門は信大の今の正門にあたり、当時の名残の建造物は赤レンガ炊事場だけ。ただし旧衛門は自衛隊構内に復元されて連隊記念館になっている。



信大の中にある旧松本歩兵五十連隊糧沫庫

長野縣護國神社と松本五十連隊の関係

鳥居の近くに「松本五十連隊跡」という記念碑があり、境内には慰霊に名を借りた顕彰碑が何基もある。「拓友之碑」、「忠魂碑」。最近「砲魂佛印派遣討四二三七部隊」なる侵略軍そのものを賛える碑が建てられた。天皇や特攻隊員の歌の掲示も目に付く。神社の裏には、旧陸軍基地があり、児童公園になっている。公園内には、納骨堂が残骸を残している。かつて連隊から駅までは「連隊道」と呼ばれた。数万の兵士が日の丸に送られ出征し、その多くが骨となって帰ってきた道である。

この内容で自分は松本五十連隊にとって今ではあまり考えられないことですが当時の人では「戦争に勝ってほしい、我らの国を平和にしてほしい」という願いがあったのではないかと思います。今でも忘れないでほしいと思います。それまで僕はこのことを知りませんでしたしかしこの本を読んでこんなにたくさん歴史があったととてもびっくりしました。

資料：僕らの町にも戦争があった

